

令和4年度

第2回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録
(令和4年度 第2回)

- | | | | | | |
|---|----------|---|-------|-------------------|-------|
| 1 | 日付 | 令和4年11月26日(土) | | | |
| 2 | 場所 | 柏ヶ谷中学校 体育館 | | | |
| 3 | 出席者 | 市長 | 内野 優 | 教育長 | 伊藤 文康 |
| | | 教育委員 | 平井 照江 | 教育委員 | 酒井 道子 |
| | | 教育委員 | 濱田 望 | 教育委員 | 武井 哲也 |
| 4 | 事務局 | 理事(教育担当) | 小宮 洋子 | 教育部長 | 中込 明宏 |
| | | 教育部次長 | 江下 裕隆 | 教育部専任参事 | 萩原 明美 |
| | | 教育部参事兼教育総務課長 | 西海 幸弘 | 教育部参事兼就学支援課長兼指導主事 | 山田 圭 |
| | | 教育部参事兼教育支援課長兼指導主事 | 坂野 千幸 | 教育部参事兼学び支援課長 | 山田 敦司 |
| 5 | 開会時刻 | 午前10時00分 | | | |
| 6 | 第一部 協議事項 | (1) 教育大綱について
(2) 部活動改革について | | | |
| 7 | 第二部 | (1) 学校発表 柏ヶ谷中学校生徒による学校紹介
(2) ユースミーティング | | | |
| 8 | 閉会時刻 | 午前12時00分 | | | |

○専任参事 皆さん、おはようございます。ただいまより令和4年度第2回海老名市総合教育会議を開会いたします。

私は、本日、第1部の司会を務めます海老名市教育委員会教育部専任参事の萩原と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、本日の進行は、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

本日の会議は、第1部、協議事項が2件、その後、休憩を挟んで市長ユースミーティングを兼ねた第2部となります。全体を通して海老名市ユーチューブチャンネルにてライブ配信をしております。何とぞご了承お願ひいたします。

それでは、初めに、市長と教育長よりご挨拶を申し上げます。

それでは、内野市長、よろしくお願ひいたします。

○内野市長 おはようございます。今年で2回目になります総合教育会議、8年を迎えておりますが、この海老名の総合教育会議、よくやっているということで、以前に、神奈川大学で講演をしてくれということで、1時間ぐらい講演会をやりました。海老名として、この総合教育会議によって教育環境がよくなったり、学校の先生、生徒児童のためにどうやっていくかと。いろいろな問題を提起していただいて、それを解決してまいりたいと思っています。

本当にコロナの関係で、感染者が減っておりません。学級閉鎖もありますし、様々ありますが、一番心配していることは、中学校3年生がインフルエンザとコロナによって、入試の問題がありますので、そういった面では、海老名はインフルエンザの予防接種を、3年生は市が負担して実施をしており、対象者については通知が行くようになっておりますので、しっかり予防するように各学校からお願ひしたいというふうに思っています。

そういった部分で、今日、協議事項が2件あります。その後、中学生の発表を聞いて、今度は私に対して中学生からいろいろな御意見を賜って、子どもたちの感覚からどういう考えかということも聞きたいと思っています。

前座は30分ほど、中学校の校舎を見させていただきました。はっきり申し上げて、職員室は昔と変わらないなと思いました。書類ばかり多くて。今、ペーパーレスの時代ですから、DXとか、いろいろ使いながら、学校もそういうふうな形になっていただきたいなと思ひますし、その環境整備は、やはりやらないといけないだろうと思っています。どこか19校のうち1校だけ先にいわゆる機能的な職員室を作って、それを各学校に広げていくことが必要ではないかなと、そういうふうに思っています。

校舎につきましては、増築があったことによって複雑に入り組んでおりまして、これだけ校舎を歩きましたけれども、歩数がすごくあったというのが事実でありまして、その部分で

は今後、校舎の改修、改築をやる場合は、あるいは、統廃合によって新しく学校を造る場合は、どうやっていくかということも1つの視点になっていくだろうというふうに思っています。今、現実考えたことは、昔は校長室、職員室は1階にあったといっても、何かある時期から2階に持っていかれたそうです。では、子どもたちの安全管理はどうするのかという問題が1つあります。これについては、今、何があってもおかしくない時代でありまして、不審者等が入ってきて、いわゆる事件、そういった部分を考えていくと、学校の安全管理というものをしっかり今後やっていかないと、夜は防犯カメラ等がありますが、昼間はどうかということ、小学校は安全監視員がいますけれども、中学校はいないと思います。だから、そういった面をしっかりと考えていかないと、やはり子どもたちの安全は守られないと思いますので、そういった視点を持ちながら、安全管理については、即やるべきことをやっていきたいと、つくづく感じたところでございます。

今日の総合教育会議、有意義な会議になることを皆さんにお願いして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○専任参事 ありがとうございます。

続きまして、伊藤教育長、お願いいたします。

○伊藤教育長 おはようございます。柏ヶ谷中学校とか、柏ヶ谷地区の印象は、私は柏ヶ谷地区の学校には一度も勤めたことはないですけども、自分で、教育委員会の立場で考えると、本当に子どもたちのために地域が何か支援するというか、地域の自治会も含めて、PTAも含めて、みんなが本当に協働して子どもたちのために力を尽くす地域だなというのが、柏ヶ谷中学校の印象でございます。

そういう中で、先日、自治会連絡協議会の方が私のところに来て、柏ヶ谷地区の子どもたちの安全について考えたいのだということ私に少し言われて、そういう中で、今までだと、例えばパトロールするとなったら、地域の大人たちが大人の責任としてパトロールはするのですが、対象者である子どもたちにも、そこに協力してもらおう立場だと考えると、本当に何か、今の、この後、ユースミーティングを柏ヶ谷中学校生徒会の子たちがやるのですが、実は、柏ヶ谷中学校の生徒会の子たちは、その前、白石市の子どもたちを迎えたのですよ。本当にそのとき、すごくよくやって、子どもはすごいなと私は思ったのですが、そういう意味でも、子どもたちが地域の中で主体的に、今までは守られる立場だったのが、逆に子どもたちも一緒にそこに加わって活動する、そういうふうな地域が、次の時代の地域づくりが必要なのかなって、ちょっと教育とは違いますが、私は感じたところです。

それが多分、柏ヶ谷地区は可能な地域だなと私は思っていますので、様々、子どもたちの

ためなのですが、子どもたちも含めて様々な教育活動ができるようなことを考えていければなと思っています。

今日は教育大綱と部活動改革ということで、教育大綱については、教育の方向性を市長が定めるのですが、それは我々と教育委員さん方が話し合っただけで定めるということ、要するに次年度から新しい教育大綱になりますので、それを協議する場を皆さんに聞いていただいて、ご意見もいただきたいと思います。

部活動改革については、今日も市長が校舎をぐるっと回ったのですが、野球部の子が活動したり、吹奏楽部の子が活動したりして、部活に励んでいる子どもたちが結構いて、その子どもたちの部活動が令和7年度に整えて、8年度から完全に土日は地域移行ということで、地域のほうで部活ができないかということで、国の1つの方向としてありますので、その間、地域として今後どうするかは我々市の教育委員会で話し合いますので、それを聞いていただいて、またご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

第一部、第二部、特に第二部の柏ヶ谷中学校の子どもたちの今の等身大の考え方を聞くのを、とても楽しみにしているところでございます。

それでは、よろしくお願いいたします。

○専任参事 ありがとうございます。

それでは、次第3の協議事項に入りたいと思います。

これより協議事項の進行につきましては、内野市長に議事をお願いしたいと思います。内野市長、よろしくお願いいたします。

○内野市長 それでは、協議事項1、教育大綱についてを議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

○教育部次長 教育部次長の江下と申します。本日はよろしくお願いいたします。失礼ですが、着座にて説明させていただきます。

それでは、協議事項のうち、教育大綱について御説明いたします。

お手元に資料を配付してございますが、同じものを提示用のスクリーンにも投影しております。こちらも御覧いただければと思います。

では、始めさせていただきます。

本日説明させていただく内容は、次期海老名市教育大綱についてとしまして、1、第1回総合教育会議での意見、2、関係団体からの意見聴取、3、今後のスケジュールとしております。

おさらいになりますが、現在の海老名市教育大綱の内容をご用意いたしました。目標は

「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名、基本的な考え方は、「わたしたちは『ひびきあう教育』の理念のもとに、子どもたちの、家庭・学校・地域の、しあわせをめざします」。取組は3つございまして、「子どもたちの今と将来のしあわせのための教育、子どもと大人がともに成長する社会、家庭・学校・地域のためのよりよい環境づくり、に取り組みます」というところに来ております。

そして、教育施策の柱といたしまして、『『えびなっ子しあわせプラン』の推進』、「新たな学校施設への取組と子育て環境の充実」、「子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実」、この3つを掲げております。この3つの柱ですが、それぞれに実施事業を位置づけておりまして、これは社会情勢に合わせ、適宜見直しを行っておりますが、現在は重要事業となっております。

プロジェクターの画像には実施事業をお示ししてございませませんが、お手元に別紙、協議事項として、参考資料、教育大綱抜粋ということで資料をご用意いたしました。その中に、この3つの柱の実施事業、14事業をお示ししておりますので、御確認いただければと思います。

次に、第1回総合教育会議での意見についてご説明いたします。

本年の7月16日に行われました第1回の会議におきまして、次期教育大綱の見直しにつきましては、その方向性、姿勢については、前回見直し時と同様の考え方で行われることをご了解いただいたところであります。それと、大綱の原案作成については、市に第三者の視点から見た意見聴取の評価ということが必要であり、それを踏まえた上で、今回、本日の会議で意見をまとめることとなりました。そのことから、前回会議終了後に関係団体であります海老名市社会教育委員会、それと、海老名市えびなっ子しあわせ懇談会に意見聴取を行ったところでございます。

では、次に、関係団体からの意見聴取について御説明いたします。

初めに、社会教育委員会からの意見聴取結果をご報告いたします。

実施時期が令和4年9月20日で、場所はえびなこどもセンターで開催された社会教育委員会のご報告でございます。出席者は社会教育委員10名、構成員は、ご覧のとおりとなっております。主な意見内容ですけれども、①教職員の就業環境の改善が課題、②文化財の更なる活用を、③「子どもと大人と一緒に取り組む」ことが重要、④大きな活力と可能性を持つ高校生・大学生が参画できる場・仕組み作りを求める、⑤大人と関わる中で、子どもが自信を深め、「好き」を発見し、伸ばして行ってほしい、⑥広い世代の交流を図ることが大切、こういったご意見が挙がりました。

続きまして、関係団体、今度は、えびなっ子しあわせ懇談会の方々からの意見聴取になります。開催時期は令和4年10月24日に行いまして、場所は同じく、えびなこどもセンター、出席者はえびなっ子しあわせ懇談会の委員の5名の方になります。構成員はご覧のとおりとなっております。

意見としましては、大人が視野を広げられる取組みが必要、②「えびなっ子しあわせプランの推進」は特に重点的に進めること、③子どもにはたくましく育てほしい。たくましさ＝生きる力の育成を重視、④インクルーシブ教育の推進を求める、⑤主体的に集まってくれる若者や大人の力を借りることで、学校は良くなる、そういったご意見が挙がりました。任意団体の一部共通する意見を示した若者世代との関わりを重視するというような意見があったように思われます。

続きまして、今後のスケジュールになります。これは、第1回の会議でお示ししました内容と大きな変更はございませんが、本日の総合教育会議で教育委員の皆様からご意見をいただき、その意見を基に事務局にて原案を作成いたします。令和5年になりまして、2月25日に予定しております第3回総合教育会議で原案をお示ししまして、その後、パブリックコメントを経て最終案を作成し、令和5年4月の令和5年度の第1回総合教育会議で新教育大綱を決定いただき、その後、行政内部等での諸手続を経まして公表するというを考えてございます。

以上で協議事項1、教育大綱についての説明を終わらせていただきます。

○内野市長 ただいま事務局から社会教育委員会会議、あるいは、えびなっ子しあわせ懇談会でいろいろな意見が出ましたけれども、それについて各教育委員さんから何かございますか。

○濱田委員 おはようございます。

2団体から先ほど事務局の説明でもありましたように、非常に幅広い御意見をいただいておりますが、特に、大人との関わる中でというくくりが非常に多かったかと思えます。あるいは若者、高校生、大学生ですね。それから、主体的な若者というような言葉も入りますので、そういうところを盛り込むような、そういうような施策を何か打ち上げられたらよろしいのではないかと思います。

以上です。

○内野市長 ほかにはございますか。

○酒井委員 私も、えびなっ子しあわせプランの推進を特に重点的に進めることという意見に同意いたします。特に学校での教育について、保護者の立場から考えると、やはり学力

を向上してほしいという気持ちが切実にあります。保護者の皆さん、高い塾代を払って一生懸命勉強させていらっしゃる方もいるというのが現実としてありますので、やはり学校で、学校の内容がきちんと、求める子どもたちに理解ができる場を与えるというのが、本当に大事なことだなというふうに思っています。親ガチャという言葉がかなり広がっている状況ですが、親の状況によらずに、子どもが自分で頑張りたいなと思ったときに、きちんとしてくれる海老名市の教育委員会であってほしいなというふうに思います。

そのためにも、子ども自身の習熟度に合った学習というものを持てる機会を、ぜひつくってほしいなと思います。今ちょうどクロームブックとの共有もできましたので、そちらも利用して、その子の理解度に合った運営もしたほうが、習熟度に合わせた授業、課題の設定をしていただけると、いいなと思います。また、部活動改革の件も、後ほど出てきますけれども、それで学校の先生たちの負担が軽くなった際には、ぜひ子どもたちの質問などをゆっくり受ける時間を、先生たちにもぜひ持っていただければなというふうに思います。

また、それを担うのは先生だけでなく、先ほどから話に上がっているように、高校生や大学生もそういう役割を十分に果たしてくれる子たちが、たくさん海老名にいます。高校生も大学入試のときに、どんな社会的な活動をしましたかというふうに聞かれる入試も最近もありますし、大学生は就職活動のときにどういう活動をしてきましたかということ聞かれることもあって、私の知っている高校生や大学生がそういう活動する場所を探している子も結構いますので、お互いのニーズが合うという、ポジティブな力がかみ合う、そういう場のセッティングを一方で設定していければ、すごく魅力的な活動がいろいろ展開できるのではないかなと思います。

○武井委員 この3本の柱の教育施策がとても充実してきて、その中で各団体から意見聴取ということで吸い上げた意見を、この14項目に反映させた感じが、とてもよいと思いました。

そういった中で、例えばSDGsの項目なども含めた部分が入っていたり、教育支援体制もありますが、十分教育委員会も充実しているというところも感じている中で、特色ある学校づくりなどは、もう少し各学校の特色を何か強めに出していただくには、何が一番いいのかなといつも思っています。

そういった中で、先ほどの意見聴取という部分で、授業改善の実施のところ、現場とかの意見をもう少し多く聴いたほうがいいのかなという部分がありましたので、そのところをもう少し意見聴取をして、吸い上げを広げていただきたいという印象でした。

以上です。

○平井委員 今年度まで実施されてきた教育施策の3つの柱、これは、私はほとんど成果なりが出ているかなというふうに思います。具体的にしたことが、とても分かりやすく、そして事業に取り組んでくださっていますので、そのあたりの点では、はっきりと現状が把握できるというのは大きかったかなと思います。

この中で、成果はすごく大きかったと思いますが、もう一度このあたりのところを見直しながら、今後何が必要なのか、継続して何が必要なのかというところを見ていく必要は、あるのかなと思います。学校給食の在り方の検討というのがありますが、これは今度、食の創造館が増築になりますので、そのあたりを含めて海老名の学校給食がどうあるべきか、そのあたりのところは取り組んでいく必要があるのではないかなと思っています。

それから、各団体から出されたものも、教職員、文化財、子どもと大人、インクルーシブ、このあたりは今後の教育の中で取り組んでいく必要があるのかなと思いますので、今回出していただいたものを、より具体化して、教育委員会の施策の中に取り入れて実施していくという方向が、いいのかなと思います。

○内野市長 ありがとうございます。

傍聴の方で何かございますか。

○傍聴人① ありがとうございます。

この中に、ぜひ取り入れていただきたいと思うことが1点ありましたので、お伝えしたいと思います。

ここに書かれてあることは、学校に登校している、登校できている子たちにとっては、とても有意義なことだと思うのですが、まだ息子も含めて、学校に来られない子どもたちが昨今増えていると思います。全国的に増えているとニュースになっている中で、海老名市も遅れているのではないかなと思います。どうぞ、マイノリティーではありますが、学校に来られていない子たち、マイノリティーのための施策も入れていただけると、ありがたいと思います。

○伊藤教育長 貴重な御意見ありがとうございます。

私自身は教育委員会の形の職としての立場として、あえてSDGsという言葉の中で言うと、誰一人取り残さないというのがキーワードです。そういう中で、自然環境とか様々な環境政策のことは言うのですが、しかし、それ以上、どんな国に生まれても、どんな生活をしていても、どんな暮らしをしていても、全ての子どもたち、大人も含めて誰一人取り残さない、そういう例えば教育なら教育にするということで、ここに、インクルーシブな教育の実現とか、私自身は次の大綱の中に、本当にそのことを入れたいと思っています。

自分自身が不登校や様々な選択で学校に来ないことを選択することは、私は可としているのですが、必要なことは、どんな選択をしようが、その子に学びが保障されるということが大前提です。教育としては、学校に来ないにしても、学校に来ないことを選択したことは可として、しかし、教育としては、その子にちゃんとした学習支援とか生活支援をする、その計画を立てて、それに向かって様々な支援を大人たちが連携して行うというのが、そういう施策がこれからは普通になるのだらうなと私たちは思っていますので、そのことは考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○内野市長 ほかにございますか。

今回、地域とか、広い世代の交流とかが、いろいろ出たのですが、高等学校は3校海老名にあるのですね。中央農業高等学校と、それから海老名高等学校と、有馬高等学校。それは交流できると思うのですが、問題は学校の受皿なのですよね。中学校ってなかなか忙しいではないですか。中学校は、いわゆる時間で切られてね。だから、中学校で学校給食をやりますよという、先生方は今、いろいろ苦勞されると思うのです。食事をするのですから。そうすると、どうやって食事の時間を確保していくかというのが、大きな問題なのです。そこを、今まではパンをかじって学校へ行ったなど、いろいろあると思いますが、同じ食事をみんなと一緒に食べる時間を保障していく。その中でカリキュラムをどうやって変更していくかというのは、大きな問題だと私は思っています。

これにつきましても、学校のスケジュールによって交流の場を、こちらが3校に投げかけて、学校が受け入れてくれるかが問題。その選択肢なのです。だから、やってもいいですよと言っても、学校が全然そんな時間は取れないと言ったら終わりなのです。だから、ここは、この教育大綱の中でしっかりと位置づけていく、先生方も学校も、それも推進していただきたいというのが私の気持ちです。よって、いろんな部分で今後こういうふうに行っていくと。

それから、具体的にどうやるかという問題もあって、先ほど不登校のことも話が出ました。もう本当に重大な問題で、相当数が多くなっています。この多くなった子どもたちをどうやってフォローしていくかというのが、今、教育長が言ったとおり、明記しながら、皆さんが納得できる、理解ができる、納得ができるような形で持っていくことも必要だろうと思っています。

ここに書かれていることは大きい項目ばかりですが、具体的に何をやるかということが求められている時代でありますから、それはしっかりとやっていきたいというふうに思っ

ています。

ちょうど先ほど不登校の問題が言われましたので、きちんと明記するような形で、対応の中でしっかりと踏まえながらやっていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

では、この件につきましてはよろしいでしょうか。

それでは、次の部活動の関係について事務局からお願いします。

○教育支援課長 協議事項2、部活動改革についてです。教育支援課、坂野と申します。着座にて失礼いたします。

まずは、海老名市内の部活動の現状です。入部数です。現在、部活動に入部している生徒の割合は8割を超えています。各学校の部活動数は、ご覧のとおりとなっております。主な部活動です。上から学校数の多い順となっております。

さて、現在市が部活動に対して実施している取組の基となるものとして、平成30年から部活動方針を策定しております。ここでは部活動の狙いとして次の3つを挙げています。1つ目が、自分の目標に向かって努力し、克服して達成感を得るなど自己を高めること、2つ目が、同じ目標に向かって仲間と共に活動する中でつながりを広げ、絆を深めること、3つ目が、心と体の健康に関心を持ち、主体的に様々な活動に取り組める生涯体育や芸術につなげていくことです。

この部活動方針では具体的に次のことに取り組んでいます。1つ目が、活動規程に基づいて計画的に部活動を実施していること。2つ目が、部活動指導員や部活動支援員などの地域の外部人材を配置していること、3つ目が、健康面やパフォーマンス向上を図るため、整形外科医やトレーナーの派遣を計画的に行っていることです。

ここまでは現在の海老名市の取組を御説明いたしました。

さて、現在話題となっております部活動改革につきましては、令和2年9月に文部科学省より次のとおり示されました。まず、部活動の課題として、地域によって課題となっている持続可能な部活動と、全国的に課題である教師の負担軽減。この両方の改革が必要であるとしています。そのため、改革の方向性として、まずは休日に教師が関わる必要がないよう整えていくことが示され、具体的に休日の部活動の段階的な地域移行を令和5年度から段階的に実施するよう指示されました。このとおりスケジュール表も示されております。

このように部活動改革は始まっていくわけですが、市教育委員会としては、これを機に、部活動そのものの在り方、枠組みの見直しが必要になると考えております。

現在の部活動、海老名市の部活動は、学校と教員が顧問として部活動に携わるほか、市教

育委員会から部活動を支援する人材を派遣して、顧問と共に部活動に携わっています。生徒はといいますと、学校の部活動に所属するほか、地域の協会などが運営する団体等にも所属するなど、選択して活動しております。また、一部、生徒が合同的に所属する場合もあります。例えば、ラグビー部はA中学校にしかありませんので、A中学校のほかに、ほかの学校からの参加も受け入れている場合です。

これからの部活動の在り方は多様に考えられます。例えば次のような場合です。近隣の学校で合同チームをつくる方法、完全にスポーツクラブに移行する方法、市が市内の企業や大学と連携して、その企業などと学校が連携して部活動を運営する方法、市教育委員会と市の文化スポーツ部局と連携して、協会などから指導者を派遣してもらう方法、市が委託業者に指導者を派遣してもらう方法、ほかにもいろいろあると思いますが、それぞれに長所、短所がございますので、まずは様々な立場の方々との対話が必要であると考えております。本日もその場の1つと考えておりますので、どうぞご意見くださいますよう、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○内野市長 ただいま部活動の改革について説明がありました。教育委員の方々から意見があればどうぞ。

○濱田委員 避けて通れないといいますか、少し自分事になりますが、やはり我々が部活動というものを経験しているときは、どうしても先輩であったり、後輩であったりの関係や、組織立ってこういう活動ができるということに一種憧れのようなものも数十年前にはあって、いろいろな活動を始めたような記憶がありますし、いつときはそれこそ、そういう活動が学校生活の大きな柱のようになっていたようなときもあったことを記憶してございます。

ただ、今、やはり多様な活動が広がっておりますし、それから、海老名の場合は部活の入部数ですか。入部員の部員数が非常に高いのかなと思いますが、多分全国で言ったら、まだ相当高いのだと思うのですね。だから、こういう形の中で、今、いろいろな活動を変革させるということであれば、我々、教育委員としてもしかりですが、私、一つのスポーツ団体のほうも関わっておりますので、最後のページに出ました、この5つのパターン、いろんな長所、短所があるというようなお話があり、最後はまとめになっておりましたが、やはりいろいろなカテゴリーの人たちと十分な意見を交換しながら進めていっていただきたいなと思います。要するに、えいやと言って、やめられるようなものではない活動も当然あるかと思っておりますので、十分議論を重ねながら、皆さんが納得しているような、新たな在り方にしていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○内野市長 ほかにございますか。

○酒井委員 今までの部活動と変わっていかないといけないということは本当に重々理解していますし、資料にあったように、休日に先生が部活動の指導に携わるって、普通に一般の労働している皆さんの状態で考えたら、休みの日に職場に来てというのは、やはり、よく考えると当たり前で改革していくべきことなのだなと理解しています。

いろいろな在り方をお示しいただいたのですが、私はできれば、中学生では難しいかもしれませんが、生徒が主導して、それを周りの大人がサポートするという形がいいのかなというふうに思っております。高校生の娘の部活動は、公共施設を自分たちで取って、そこにOGの先輩などに来ていただいて、いろいろ指導してもらったりしながら自分たちで練習をするという部活動の進め方をしている日も結構ありまして、高校生と中学生では事情は違うかもしれませんが、中学生って思っているよりも、ずっと大人で、自分たちで自分たちのことをいろいろ決めていけるということを体験することで、自分たちにしっかりそういう力があるんだというのを確認する場にも、きっとなると思いますので、ぜひ、いろいろな援助は当然必要になってくると思うのですが、生徒たちがどうしたいのかというのを中心に据えた運営というものを、ご検討いただきたいなと思います。

○内野市長 ほかにございますか。

○武井委員 やはり大きな課題として迫っている部活動方針なのですが、教職員の方々の負担軽減というのは、もちろん軽減されるというのは分かっている、そういった中で部活動を外部の指導者に移行するという大変なところがあったのですが、一番最後の10ページのこの5項目の中には、意外と可能性の秘めたものが多く含まれていると思っていて、行政主導型の中には外部指導の方々を入れるだけではなく、教職員以外の方に、例えば海老名市の市役所の職員の方々とか、県の職員の方々とかも、そういったところに入れる余地もあるのかなというところと、海老名市には外部のスポーツ指導者をまとめる企業がないので、例えば、それを新しく海老名市で立ち上げて、そういったスポーツ指導者をまとめるところをつくってもよいのかなという、可能性を秘めたこの5項目だと思っておりますので、ぜひここを中心として部活動移行に進めていっていただければと思います。

以上です。

○平井委員 今、部活動に参加している子どもたちが83%ということで、入部率はすごく多い。私は、今後のことを考えて、小学校の5、6年生あたりに、中学校に行ったら部活動がどういうふうな状況で、参加したいかというアンケートを取ってもいいかなというふうに思っているのです。今、子どもたちがこれから先、どういうふうなものを望みながら中

学に行こうとしているのかという、そういうところを把握しながら、運動部が多い、文化部が多いなど、いろんな個人的なものが個別に出てくるでしょうが、大体の方向性、海老名の子どもたちがこんな方向で中学校の部活に希望を抱いているという方向の中で、じゃあ、こういう形で、この部分に人数が多いのだったら、こういう部分は外部に委ねるとか、校内で指導ができるとか、そんなふうな、ある程度の方向性も1つ出てくるのではないかなというふうに思うので、ここに幾つかの地域移行の在り方が出ていますが、それらを参考にしながら、海老名としてどういう形がいいのかというのを考えていけばいいのかなって。

私は、そんなに焦ることはないと思っていますのですね。ある程度形が決まったら、その方向で行かざるを得なくなると思いますので、土台をしっかり話し合い、方向性を決めて一步一步進めていくのがいいかなというふうに思います。

○内野市長 校長先生がいらっしゃいますが、何かありますか。

○傍聴人②柏ヶ谷小学校長 失礼します。柏ヶ谷小学校校長の麻生と申します。

私は今、小学校の校長をしています。もともと中学校の教員でしたので、実は、この柏ヶ谷中学校でも6年間勤務して、ソフトテニス部の顧問をしていました。働き方改革等で、土日の中学校の先生の負担を低減するという、その発想とか考えは、もちろんこれからの時代、大切だと思うのですが、私、個人的な経験というか、過去を振り返ると、若い頃は特に、部活動の顧問をして子どもたちと関わったことが、本当に教師としても大きな財産になっていたりするので。一方、そういう顧問をして何かを学んだり、大切な宝物を得ている先生方もいるというのもあるので、そこにいろいろな型が出ていますが、そういう先生方が積極的に関わられるような仕組みを残しつつ、教員の選択肢も広げるような、そういった部活動の在り方がありがたいかなというふうに思っております。

以上です。

○内野市長 ありがとうございます。

傍聴の方でも構いませんけれども。どうぞ。

○傍聴人③ 部活動について、生徒たちに何か意見というか、そういうのを何か聞いたことってありますか。要は、するのは生徒たちなので、生徒たちがどういうふうにしたいかというヒアリングが必要ではないかなと思います。実際、部活は、子どもたち1人1人考え方も違うし、すごく悩むし、本当に学校に行けなくなるぐらいの悩みを抱えたりする場所でもあるので、本当に大事な場所なので。結構学校のくくりって大きいなと思っていて、子どもたちは結構、学校に対する愛着というのは、部活動をする子はすごく大きいと思うので、何かそういう学校のくくりを大事にしながら、生徒たち1人1人、どういう部活をしたいのとい

う、そのヒアリングをするというのも大事ではないかなと思います。

生徒によってはいろいろな考えがあるので、そこで選択肢を設けるだとか、そういうこともできると思うのですが、まず、生徒がどう思っているのか、1人1人どう思っているのかというのを聞くというのも、ひとつ方法なんじゃないかなと思います。

○内野市長 聞いたっけ。聞いている？ アンケートで生徒から。児童から。

○教育部長 まだそこまではやれていないですね。

○内野市長 これは今後、来年から始まるのですが、私ども、教育長と結局話しているのは、文科省の方針を待っていても全然がちが明かない。そこで、海老名は海老名型のものを始めようねということで、いろいろやれることをやっていこうねという話はしているのですね。お金をかけても。

先生方も、今日校長先生がいますが、中学校の先生もいる。部活動が必要だと思っているのでしょ。必要じゃないという先生はいる。そうすると、1つあれですよ。先生になるために教職員試験を受けるじゃない。教師は。そのときに、あなたは部活動に対して積極的に参加しますか、しませんかって面接で聞かれないの。条件じゃないの。そうなんだ。

消防職員はもう顕著にありますね。国語じゃなくて体力だから。国語は必要なですよ。けれど、やはりその部分で、火の中に飛び込んでいくのだから、そういったことは必要なですよ。職員にもその部分は、部活動をやってますかということとか、大学は何をやっていたかとか、いろいろ、高校ですとか、評価が出ます。先生ってないの。そういうところは、少し県に言わないといけないね。採用試験で部活動に積極的に参加するとかね。今、麻生先生が言ったとおり、独身の頃は5年間ぐらい一生懸命やりたいよとか、そういう人はいるかもしれません。

今言われたアンケートについては実施するような話で、方向で進む必要が絶対あると思いますから、それも、小学校6年とか5年からも必要なですよ。自分が中学校へ行ったら、こういう部活動をやりたいとか、そういったものも必要です。3年生ぐらいだと、もう後半になると受験になり、部活動をやっていないというのが多いので、それを含めて対象をどこにするかによって、アンケートとか、ヒアリングとか、そういうものはやってみたいと思いますので、それはいい御意見を賜って、参考にしていきたいと思います。

その中で、市としてできること、教育委員会が主体でやりますから、市としてバックアップがどうできるかというのは教育長と一緒に相談しながらやっていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

では、これについては、ここで私は引っかかっているのですが、考えられる多様な地域移

行への在り方じゃなくて、考えられる多様な方法だと思います。地域というと、これは地域の自治会の皆さんは知っているけれども、地域とはいろいろな団体があるのですが、自治会、地域という押さえ方はとても難しいのですね。子どもがいる地域の問題と、部活動が地域だけでは語れない問題があるので、広く、技術面など、いろいろあるので、これは地域移行って文科省が言っているのと思うのですが、海老名方式に変えたほうがいいと思いますよ。何でも地域といったら地域が参ってしまいます。今、自治会の役員さんの成り手もないところがいっぱいありますし、それから、消防分団だって成り手がいないところ。そういう状況があるので。したがって、地域ではなくて、多様な方法など、そういった形だと私は思うので、その辺は、スポーツですから、地域の人誰でもできるというわけにいかない。年代や、指導力があるとか、それから、技術面があるとか、あるいは、いわゆる人間性を育てる部分があると思います。その辺は多様な方法で、よろしくお願ひしたいと思います。

では、これについてはよろしいですか。いいですか。

では、これについては、先ほどの貴重な意見を聞かせていただいて、今後、できるだけ早めに学校の児童生徒等にアンケートを取る方法を進めていきたいと思っています。これは教育長、よろしくお願ひします。校長先生、よろしくお願ひしますね。アンケートは取るだけです。集計はこっちがやるので、よろしくお願ひしたい。

今、タブレットでできますからね。みんな持っているような。タブレットを持っているので、それで集計すればできてしまうので、その部分をやりたいと思う。早急に。それが1つのきっかけになろうと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

これにつきましては以上であります。

その他、何かございますか。よろしいですか。

では、これにつきましては、第一部は以上であります。では、よろしくお願ひします。司会を終了させていただきます。

○専任参事 ありがとうございます。

それでは、これで第一部、協議事項を終了いたします。

この後、次第第二部に入りたいと思いますが、準備がございますので、15分程度休憩とさせていただきます。11時5分から再開ということで進めたいと思います。

皆様、ありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(休 憩)

○理事 それでは、休憩前に引き続きまして総合教育会議、第二部を開催いたします。

私は、第二部の進行を務めさせていただきます教育部の小宮と申します。どうぞよろしく

お願いいたします。

着座にて進行させていただきます。

なお、この第二部は市長ユースミーティングを兼ねて行い、柏ケ谷中学校の皆さんにご参加いただいています。

ユースミーティングとは若者版のタウンミーティングのようなもので、中学生の皆さんが生活の中で日頃いろいろと感じられていることや、市政に関する思いなど、様々なことについて市長と語り合う座談会というふうになっております。

それでは、柏ケ谷中学校の皆さん、こんにちは。本日は、お忙しい中ご参加くださいまして、ありがとうございます。

皆さんは柏ケ谷中学校の生徒会の本部役員、2年生と3年生ということですが、お1人ずつお名前を自己紹介の形でいただいてもよろしいでしょうか。お願いします。

(自己紹介)

それでは、早速ですが、初めに、柏ケ谷中学校の活動、特に生徒会活動を中心にということで御紹介いただけるということですので、お願いをしたいと思います。よろしくお願ひします。

○生徒 これから柏ケ谷中学校の学校紹介を始めます。

○生徒 まず、学校のスローガンについてです。

今年度の柏ケ谷中学校のスローガンは「STELLA☆彗」です。カステラで覚えてください。

私たちは、STELLAの各アルファベットを頭文字として、4つの目標を当てはめました。

最初のSはSDGs。各委員会でSDGs活動を行い、全校生徒のSDGsへの関心を高めるとともに、社会に貢献することを目標としています。2つ目はTEで、チームワーク。生徒同士が協力し合い、協働して作業をしていくことを目標としています。3つ目はLで、リンク。学年内の横のつながり、そして学年を超えた縦のつながりを強くしていくことを目標としています。最後のAは、オートノマス、自主的に、自立的にという意味があります。生徒1人1人が自ら考えて行動でき、生徒自身が学校をつくっていくことを目標としています。

続いて、このスローガンを設定する目的です。私たち柏ケ谷中学校生徒会は、今年度、目標とする生徒像、学校像をそれぞれ2つずつ掲げました。それが「生徒中心で創る学校」、「環境について考え貢献できる生徒」、「他学年との繋がりがある学校」、そして「相手の気持ちを考え、協力できる生徒」です。これらを全校生徒に意識してもらうために、分かりや

すく意識してもらうために、このスローガンを設定しました。

次に、柏ヶ谷中学校の課題です。柏ヶ谷中学校の課題として、生徒会各種委員会の活動内容が分かりづらいこと、校則の内容や理由が曖昧であること、一般生徒の意見を取り入れる機会が少ないこと、そして、生徒会本部委員長会議の質が低いなどが挙げられました。

○生徒 次に、生徒会が去年行った活動についてです。

生徒会では、ジェンダー平等の観点から制服の自由化を提案しました。また、生徒会活動の見える化のため、目安箱の設置や生徒会新聞の作成を行いました。

また、ほかの委員会では、SDGsの3番の観点から、保健委員会さんでは手洗い実験を行い、福祉委員会さんは緑と赤い羽根の募金、エコキャップ回収を行いました。また、体育委員会さんでは昼休みカップを行いました。昼休みカップでは、生徒の運動をする機会を設けることができました。

○生徒 1つずつ詳しく説明していきます。

まずは、ジェンダー平等の観点から制服の自由化の提案です。内容としては、1週間、生徒会役員が校門であいさつ運動を行いました。このあいさつ運動では、女子がスラックスを履き、男子がスカートを履くことで、誰がどんな服を着てもおかしくないことを示しました。その結果、学校でジェンダー平等という言葉が頻繁に聞くようになりました。生徒がジェンダー平等についての問題に興味を持つようになったのだと思います。

これが実際のあいさつ運動の様子です。あいさつ運動を行ったことで校長先生が女子生徒用のスラックスを作ってくださいました。私が履いているのが女子用のスラックスとなっています。

○生徒 次に、目安箱についてです。

私たちは生徒の意見を取り入れるため、各フロアに目安箱を設置しました。その結果としては、生徒が意見を言える機会をつくることができました。しかし、想定よりも多くの意見が集まって対応に遅れてしまったり、質問の内容が想定できていなかったことが反省です。

○生徒 生徒会新聞です。生徒会新聞の内容としては、生徒会本部が新聞を作って発行し、全校生徒に配布しました。目的としては、生徒会の活動を知らない人が多かったため、新聞にまとめて一般生徒に生徒会の活動を伝えました。生徒会新聞を発行することで生徒会の見える化を目指しました。反省としては、読む人が少なく、効果があまりなかったことと、新聞を毎月発行することを目的としていましたが、生徒会の活動が少なかったため達成することができませんでした。

これが実際の生徒会新聞です。生徒会新聞では、SDGsについて私たちができることを

紹介したり、生徒会が行った活動についてをまとめました。

○生徒 これは、保健委員会さんが行った手洗い実験の様子です。現在はコロナウイルスということもあり、手洗いの重要性について知り、意識する、よい機会となりました。

○生徒 続いて、今年の活動についてです。今年の活動は、ご覧のとおり、主に5つとなっています。本日はフードドライブ、資源削減、体育祭で使用した道具などの再利用、節電についてお話しします。

まず、フードドライブです。フードドライブとは、保存の利く商品を回収し、地域の民間企業を通して福祉施設等に寄附する活動となっています。SDGs や社会福祉に貢献するために、できることを生徒会本部役員自らが提案し、活動していく予定です。

○生徒 次に、資料削減についてです。

生徒会本部委員長会議で、クロームブックにダウンロードした資料を活用することで、紙資源を削減しました。しかし、生徒総会や各種委員会の活動では紙資源を大量に消費しているのですが、回線の問題でクロームブックを全校生徒で使用すると重くなってしまいうため、まだ活用し切れていないという現状があります。

これが生徒会本部委員長会議の様子です。資源の削減のほかにも、時間の効率的にも紙を配る時間がなくなったので、活用して結果はよかったです。

次に、体育祭で使用した道具の再利用についてです。体育祭の応援合戦では例年ポンポンを使用することが多く、プラスチックを大量に消費していましたが、きれいなものを再利用することでプラスチックの消費を抑えました。

○生徒 続いて、節電についてです。運営委員会などの各種委員会などに協力をお願いし、生徒に節電をすることを呼びかけました。

○生徒 続いては学校紹介です。

学年行事では、1年生が野外教育活動、2年生が東京班別平和学習、3年生が京都、広島へ修学旅行に行きました。

○生徒 野外教育活動です。1年生は入学してすぐ野外教育活動を行いました。クラスでの交流を深めることを目的とし、炊事などを通して、これから共に過ごす仲間たちと協力をすることができました。

○生徒 次に、2年生の東京班別平和学習です。2年生は総合学習で平和学習のため、東京に行きました。

その中で3つご紹介します。1つ目は、東京大空襲・戦災資料センターです。ここでは昔の出来事を知る以外に、現在と比較でき、現在がどれだけよいかを知ることができました。

2つ目は、昭和館です。ここでは昔の生活から国全体の様子まで知ることができました。3つ目は、すみだ水族館です。2年生は平和を学ぶことを第一の目的としつつ、観光も含め、すみだ水族館に行きました。ここでは頭上をオットセイが泳いだりするなど、いろいろな種類の魚を見ることができ、楽しむことができました。また、お土産を買ったり、季節ごとに変わる展示の金魚を見たりすることができ、とても楽しかったです。

○生徒 続いては3年生です。3年生は2泊3日で広島と京都へ行きました。1日目は広島へ行きました。広島では原爆ドームに伺い、資料館を拝見したり、平和の歌を歌ったり、クラスごとに作った鶴の献鶴を行うことで平和への思いを伝えました。2、3日目では京都へ行きました。京都では班ごとに海老名と京都の違いを中心に学び、まちづくりに生かせるものは何かを探求学習して、それをまとめ、発表しました。

これは、多くの班がテーマに設定した建造物の造りの違いについてです。ここでは某コンビニの造りの違いが見られます。

○生徒 体育祭では、学年種目、玉入れ、綱引きなどを通して色同士が共に高め合い、学年全体のつながりを強くすることができました。

合唱祭は、新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して行ったりしていましたが、今年は2年ぶりに海老名文化会館で行うことができました。さらに、生徒1人につき1人まで保護者の参観が可能となりました。

○生徒 これで柏ヶ谷中学校の学校紹介を終わります。(拍手)

○理事 柏ヶ谷中学校生徒会本部の皆さん、ありがとうございました。

それでは、席のほうへ、着いていただいて結構です。すばらしい発表をありがとうございました。

それでは、今の発表について、内野市長、伊藤教育長、教育委員の皆様方、感想や、例えば簡単な質問等ありましたら、お1人ずつお願いできればと思います。

○濱田委員 よろしいですか。

学校新聞のところで気になったのですが、読む人が少なく、学校新聞を毎月出そうと思ったけれども出せなかった。何回ぐらい発行できたのか教えてください。

○生徒 実際に発行できたのは、まだ2回だけですが、活動頻度的にも集まるときが少なく、あまり活動できなかったのが時間になかったというのが大きいです。

○濱田委員 あと、目安箱についても、なかなか新しい取組で、いろいろなふうで、これからまだ後半、皆さん方のいろいろな活動を続けていただければ、ここで初めての取組だと思しますので、よろしかったのではないかと思います。本当にすばらしい活動をありが

とうございました。

○酒井委員 私からも。

ジェンダー平等、あいさつ運動というのは、すごく今の時代だなというふうに思いました。やはり大人は昔の価値観で育てていこうというのがどうしてもあるので、今を生きる中学生が、こうやって新しいものにどんどん挑戦して、新しいことをやっていく、そして、それがいつの日か当たり前になっていくのだなというふうに感じました。これからも、自分たちがこういうものを変えていきたいなということが社会にあれば、皆さんでどんどんチャレンジして行ってほしいなと思います。

○武井委員 皆さん、大変すばらしい発表をありがとうございました。

最近、SDGsも含めて環境のこと、再利用のこと、資源活用のこと、そういったことを前提に置いて、学校にある素材、材料などを大切にしているということをととても感じました。世の中には、リサイクルという部分もあるのですが、それをもう1個上に上げるアップサイクルということがあります。逆に言うと、ダウンサイクルというところもあるので、皆さんは次の時代を担う若い子たちなので、アップサイクルをもう1回勉強してみて、今ある素材を、もう少し価値をつけて上に上げるという行為を勉強すると、大人になって、もう1段階上のステージに行けるかなと思います。

ダウンサイクルって、簡単に何かなというと、ダウンサイクルは、例えば余った食材や物を家畜に与えたり肥料にするということが、ダウンサイクルです。しかし、余った素材や材料をもう1個上のステージに上げると、アップサイクル、もっと付加価値のついたものになるということなので、何かそこができれば、また違う大人になれるかなと思います。

あと、1個聞きたかったのが目安箱。目安箱の意見聴取がととても多くて、何か答えを返すのに困ったということを発表されていて、目安箱に来た意見は、どんなものが多かったのかなというのを、少し教えてほしいです。

○生徒 一番多かったのは、ジャージ登校を可にしてほしいという要望で、制服ではなく、ジャージ登下校を可にしてほしいという要望が多くありました。

○生徒 できない理由としては、名前がジャージに入っているのも、それで個人情報が流出するであったり、受験のときに外に出られる格好でいるということも、よく言われているのですが、やはりそういうので風紀だったり、いつでもしっかり受験のときに大丈夫なようにというのを意識するために、ジャージ登校は難しいという議論にはなりました。

○武井委員 ありがとうございます。

ぜひ生徒会で検討して、意見を吸い上げて、うまく実現できればと思います。ありがとう

ございました。

○平井委員 学校のスローガンをつくり上げたところが、すばらしいなとは思いますが。小学校の児童会も、なかなか活動が難しいです。小学生にとっては。中学生になると、やはりここにもあるように、柏ヶ谷中学校の課題というものを学校生活の中で見つけていけるというのが、すばらしいなというふうに思います。

その中で特に私の目を引いたのは「生徒中心で創る学校」、これがすばらしいなというふうに思うのです。まだ初めかと思うのですが、やはりこれが学校生活、中学校の3年間を楽しいものにしていくかというのは、そこにかかっていると思うのです。学校の教育目標は私たち側から、教師側からつくるものなのですが、ここに「生徒中心で創る学校」というものが入ってきたのを見たときに、みんなで作りに上げていくのもいいのかな。皆さんが、こんな学校にしたいな、学校生活、こんな学校だったらいいなというものを学校と話し合いながら学校の教育目標をつくっていくと、もっともっと皆さんの考えが活かされる、すばらしい学校になるのではないかな。その足がかりとして、皆さんがぜひぜひその中で、学校にいろんな課題を投げかけていただけたらいいかなというふうに思います。

○内野市長 本当に環境問題など、そういった関心を持っていただいたり、食品ロスの問題など、とても関心がいいなと思いました。

先ほどのジャージで通学したいというのは、みんなが言ってもできない？学校が駄目だということ？学校はオーケーしているの？していないでしょう？そういうことなのです。生徒の要望を聞くと、こういうふうにしたいと言っても、いわゆる学校の校則、それから保護者の人も出てくるのですよ。私は、海西中学校のPTA会長を3年間やった。そのときに、かばんを自由化して、次は制服を自由化しようという提案があったときに、一番反対があったのは保護者です。そういった感覚が、ジャージというか、体操着を統一するのです。私は、色はこういうジャージにしてくれと、自由に買ったほうがいいだろうと思っています。なぜかという、そろえるということの中で単価が上がっていくのです。

だから、逆に言えば、制服が必要だったら、今の制服を、卒業式には着られるように学校で全部用意しておけばいい。それを卒業式に着てもらえばいい。それを今度は洗濯して、次の年に着るとやればいいのかと思うのです。イギリスとか海外へ行くと全部自由で、最後は帽子をかぶって上からかけるようなものではないですか。私は、これからの時代は、やはり多種多様になるから、一律に画一的に子どもたちをこうやっていくということは、服も1つのファッションで、色彩もあります。だから、それを一律でやっていくことも提示する中で難しくなっているのだなと、つくづく思います。

だから、生徒の意見というのはそれぞれ聞きながら、学校、保護者の皆さんがどうやって考えていくかという時代になってきているのではないかなと思います。先ほどのアンケートもそうですが、子どもが何を考えるかというのは絶対必要なもので、それはそうですよ。学校を帰るとき、雨の日は制服で帰るより、ジャージで帰ったほうがいい。乾きが早いし。制服は濡れると、もう次の日、ぐちゃぐちゃになって、やはり今後そういう、ジャージで帰りたいといったとき、天候が悪いときは通学がジャージでもいいではないかとか、そういった物の発想が必要ではないのかなと私は思います。

なぜかという、制服がもうびしょびしょに濡れたら、次の日もう着られないから、ジャージだったら、すぐ洗って乾かせるし、そうやって合理的に考える必要もあるのではないかなと思っています。

ここで面白いのが校則の内容、理由が曖昧。すごいね。私たち、小学校とか中学校へ行って、高校へ行っても校則は見たことがなかった。教育で。もう言われるままだったから。そういった面で、今、校則っていろいろ問題になっていますので、こういった問題を視点に置いてやっていくことが、1つずつ皆さんが成長する過程ではないか。反発ではなくて、お互いに自分たちの意見を言うということが必要。それは実現できなくても、どうやって考えていくか。だから、要望があったらできないことはできない、説明責任を果たしていく。そうすることによって生徒の皆さんが、皆さん方の価値観が高まっていくのではないかなと思います。できない、できないではなくて、なぜできないかということを明確にやっていくと。

なぜかという、私が今やっている仕事の多くは、決裁を行っているのですが、市長への手紙が多いです。予算などは、各副市長がいて行っているのですが、市長への手紙は毎日のように決裁していて、市民の1人ずつの意見も聴いて決裁していますが、なぜそうできないか、何年後とかにできるよなどと明確にしていかないと、やはり説明責任は果たせないのではないかなと思いますので、参考にしてください。

私は、はっきり言って、いいことをやっているかなと思っています。校外学習なのですが、ずうっと見ていると、勉強、勉強で、学習しました、それで何か肩凝らない？東京へ行ったら、観光でもいいから。昔、私たちの小学校の遠足は向ヶ丘遊園地だったのです。3、4年。なくなりましたね。では、今、小学校の遠足でディズニーランドに行ったらというと、学校はみんな反対する。あそこは遊びだ。では、私たちのときは何で向ヶ丘遊園地だったのか分からない。そういう問題がある。時代背景の中で。それは教育長といつも議論があるのですが。

だから、学校があえて考えることは、ディズニーランドはカップルで行けますが、みんな

で行ったことないですね。そうでしょう。みんなで行って、班ごとに行ったらどうでしょう。面白いではないですか。友達同士で。好きな友達で行けるから、学校で行くということは、小学校ぐらいは面白いのではないかなと、いつも意見を言っています。それは学校の判断でありますから、皆さんも、先ほど部活のアンケートを取るといってもありますし、修学旅行なんかも、どこに行きたいなんていうのはアンケートを取って、やはりその辺を先生方に言って、こういうところに行ってみたいと。3年間。

地域の問題って、これはあるのですが、修学旅行は3月でもいいのではないかと私は言っているのです。3月10日で終わりではないですか。みんな。それから部活も何もないわけですから。だから、3月10日以降でもいいのではないかとこののですが、あとは学校の先生方の判断ですから、私の意見はそこまでにしていきたいと思えます。

○理事 ありがとうございます。

それでは、ここからはユースミーティングということで、本来は、ユースミーティング、中学生の皆さんと市長とでお話しを進めるということなのですが、適宜、教育長、教育委員の皆様方のご発言をいただく形でよろしいでしょうか。

それでは、皆さんのほうから、せっかくの機会ですので、今の発表の中に出てきたことに絡めても結構ですし、それ以外でも結構ですので、何かありましたら、ぜひいただけたらと思うのですが、どうですか。

○生徒 市長への質問がありまして、市長から見た海老名のよいところ、また、課題点は何だと考えていますか。

○内野市長 海老名の市長を19年やってきて、海老名がこれだけ、ある程度マスコミに取り上げられたり、新聞に取り上げられたり、いろいろなことがあって、海老名って知っていますかって全国に行くのですね。行くと、海老名のサービスエリアは知っているのですよ。海老名がどこだということは知らない。それを現実に私は市議会議員の頃から経験していて、神奈川県の中でも、33市町村あって、相鉄の始発、終着、途中でもいいですけども、相鉄線が横浜にちゃんと行っているということになると、住む町としてはいいですよ。それで、いろいろなまちづくりをやってきたときに、ちょっと都会でちょっと田舎ということは若い人たちが言うのですが、少し行くと自然が多くて、田んぼか田園風景があって、それから、駅周辺はにぎやかになっていて、そういった部分はいいなと思っています。

課題はというと、課題はいっぱいあると思うのですよ。なぜかと具体的に言うと、学校が19校あるのですね。小学校13校、それから、中学校6校。今、柏ヶ谷小学校の体育館の問題を教育委員会では悩んでいるのです。柏ヶ谷小学校に行っていた人、います？柏ヶ谷小学

校。あそこの体育館はこうやって下るでしょう？下って、もう暗いよね。この間もやったのですが、もうこれを改修するのは無理ではないか、建て直したほうがいいのではないかと思います。そのほうが経費はかからない。そこで、では、グラウンドの上に建てたらという提案をしたのです。グラウンドが狭くなっちゃう。狭くなるけれども、ふだんのいわゆる体育の活動はそこでやって、運動会等は北部公園を使ったらという提案をしています。最終的に学校を統廃合すると、北部公園は広大な公園になるから、そういったところで使ってもいいのではないかと思います。今、小中一貫校を教育長が言っているので、柏ヶ谷小学校を下に持ってきちゃおう。下に持ってくると、どこに持ってくるといったら、ここのグラウンドから全部、小学校と中学校を造って、目久尻川沿いの向こうに畑がいっぱい残っている。上今泉のほうにある。あそこに広大なグラウンドを造ってやっても面白いのではないかと考えるのですね。

ところが、皆さん、グラウンドに行くときに歩いて行かなきゃいけないでしょう？だから、そこは安全管理がきちんと必要なのですが、そういったことで1つ1つ発想を、今後の10年、20年、30年を考えるとやるのですが、課題というのは、やはりそこで話をしたことが、反対があると反対の声が多いのですよ。賛成の声が少ないのです。静かなの。だから、そこでいろいろな説明責任は果たしていくという形になると思うのですね。

海老名は、人口が今13万9000人で、今後14万人になるのですが、なってから15万人ぐらい、いくと思うのですよ。そこで必要なのは、やはり芸術とか、文化とか、スポーツを盛んにする舞台が必要だと思っています。そういった関係が。それをやらないと心のゆとりができないから、そういったものを今後の方針として考えていく必要があるだろうというふうに思っています。

以上です。

○生徒 ありがとうございます。

○理事 ほかの方、いかがですか。

○生徒 市長に質問で、何で高校3年生まで医療費の無償化を行うようになったのですか。

(拍手)

○内野市長 昨日のNHKで放映されたり、今日の新聞にも出たのですが、一般的に来年度、秋頃から一部中学校は学校給食を始めて、次の年、令和6年から全面、中学校も学校給食が始まります。議会等でも小学校の給食費を無料にしようという話が出ています。私は、食べるものは、やはり家庭が、保護者が負担すべきだと思っています。病院に入院したって食事代を出します。ですが、生活保護や低所得の方は年間スクールサポートでしっかりフォロー

しています。やはりそれはやっていくと。

だから、そういう中で考えたときに、中学校まで医療費を無料化した段階で所得制限をつけていません。所得が多い人も少ない人も全部無料です。全員。そうやって考えたらば、中学生で病気をして、難病を患った人が高校に行く場合、無料ではないです。そういったことを考えていくと、セーフティーネット、最終的に市役所ってセーフティーネットなのですよ。困ったときに何をやるかというのが市役所の最低やるべきことなのです。それを考えたときに、高校生までやはり無料にしておく、いいだろうという形の判断をし、そういう方針を決めて、今、予算組みしています。これはずうっと所得制限なしに高校生まで行くと思います。

そういった中で、自分たちの、いわゆる高校になると、聞くと、歯医者さんも無理して行かないとか、少し痛いところがあっても行かないとか、そういう問題は、無料だと行きやすいという面もありますし、それから、本当にさっき言ったとおり、小学校、中学校で病気になった人が、そのまま継続している人もいるのですよ。ところが、中学校まで無料で、そこからお支払いするというのは大変なので、そういったことを考えて今回判断をしております。

以上です。

悪いこと、いいこと、どちらだと思いますか。

○生徒 いいことだと思います。

○内野市長 ありがとう。

○生徒 ありがとうございます。

○理事 昨日の朝、初めてニュースで出たことなので、多分そのことについて質問をしたのは、海老名市民の中であなたが初めてなのではないかと思います。

ほかの方で、今、市長がお話しされたことについて何かありますか。別な質問のほうに行きますか。

では、別の質問や御意見、どうぞ、お願いします。

○生徒 柏ヶ谷中学校ではフードドライブを実施する予定で、海老名市のほうでも小中給食事業というものも広報えびなに載っていたと思うのですが、そのことについてのお考えを市長のほうから聞かせてほしいです。

○内野市長 フードドライブ、いわゆる食品ロスをなくしていくということと、今、経済状況もあるということで、そういったものについて社会福祉協議会が中心となって、市もしっかり行っていますが、一定量、食品を集めて、定期的に募集、広報などしています。

私もすごいなと思ったのは、民間企業を通して福祉施設等に寄附する活動ボランティアです。中学生からそういったことをやっていくと。ところが、出してくださいと言うと、みんなが持っていくから、ない家はどうするの、買ってくるのかとなってしまうので、それはやめて、あるものを持ってきてもらうという形にすればいいのではないかな。

昔、私は、中学校のPTA会長をやっていたときに、バザーをやりたいということで、各家庭、一品持ってきてくださいと言ったのです。そうしたら、ある人がこう言いました。「内野さんのところは市議員だから、もらい物がいっぱいあるからいいですが、私のところはない」と文句を言われました。私は買いに行かないといけないと。そういうことがある。だから、そういうことを買ってまでやる必要はないのですよね。あるもので、いわゆる賞味期限があったら、全部持ってきてもらって、学校である程度、19校ありますけれども、それを一定、社協がその日を決めたら回収して、それをフードバンクに出すと。そういうやり方が必要。今日聞いて、ああ、そうだな、中学生にも教育してもらおうと最高だなと思いました。

皆さん知らないと思いますが、3・11、東日本大震災があったでしょう。そのときはすごく揺れて、海老名では被害はそんなになかったのですが、その後が大変だったのです。計画停電があって、覚えている人もいると思うのですが、ある時間帯、全部電気が消えちゃう。それを東電が事前に知らせてくれなかった。知らせてくれるのは大体1日前なのです。それを全体に知らせるのにどうしたらいいかと考えたときに、海老名は5万5000世帯ある。そこにピラをこうやって渡すのに、どうしようかと考えたときに、自治会に頼んでもなかなか昼間は難しい。そこで考えたのは、学校の生徒さんに渡そうと。小学校、中学校。小学校の子どもなんかは、全体に10枚ずつ持って、近所にポスティングをやってくれたのです。ここは老人がいるからとか、それはすごかった。それは、全体で小中学校は1万2000人いますから、1人5枚配ってくるとすっかり回るのです。だから、そういった部分では、皆さんが今後、地震があったときなど、いろいろな関係で、ここが避難所になったときに、自分たちは食事を食べるだけではなくて、そういった手伝いで何ができるかということを考えていただくと、さっき新聞がありました。新聞で、東日本でも勇気づけられたことがありますから、そういった部分ではよろしくお願ひしたいなと思っています。

○理事 小中学校の給食のフードロスについて、教育長、お願いします。

○伊藤教育長 皆さん、小学校で給食を食べたと思うのですよね。13校で給食を食べると、みんなが残したものは、まあ、皆さんに言わせれば、あんまりおいしくないからなという理由があるかもしれないし、これは嫌いだしなとかと思うのですが、それが給食センターに全部集まると何トンという単位。それは、お金をかけて税金で処理するのですが、もちろん、

その処理は捨てるというのではなくて、何かに作り替えて、また再利用するという処理なのですが、そうやって考えると、何かSDGsは、いろいろな全体的な働き方もあるのですが、自分たちが、自分たちの個人の生活の中でやれることって、あると思います。私は来年、小学校の給食に、私の意見を子どもたちにメッセージを全部渡して、あとスプーン3杯、3つ分食べてくれって。世界中ではこんなに困っている人たちが、食料が足りない人もいるのだから、給食のときに、あと食べられたら、スプーン3杯分ぐらい、ちゃんと食べてくれと言おうかなと思います。でも、その理由はちゃんと書いて、これこれこうなのだよって。そうやって、子どもたちは給食で何か、食品ロスとか、自分たちのことを考えられている。

だから、中学校で何か、今の1年生、2年生が給食になったときも、みんなで自分たちの生活の中で、フードロスとか何か、本当に自分の生活、家庭の中でも、みんなが中心になってそれを進められればいいかなと思います。学校給食については、教育委員会としては、やはり子どもたちと一緒に考えて、それを実現するための取組を次年度からも計画していますので、それを進めたいと思います。

以上です。

○内野市長　そこで1つだけ。

食品ロスが1トン残ったら、焼却処理するのに2万5000円かかるのですよ。輸送費を入れると数万かかっちゃう。年間165日あると、150日にするにしても500万円ぐらいかかるのですよね。

だから、残せないという場合は何が一番いいか。給食センターに、皆さんが好きな、おいしいものを作ってもらおう。もうこれから、言っていくということだと思う。まずいものを出すなど。その代わり皆さんが希望したものは絶対食べる。いい？ですが、栄養士さんは栄養のカロリーを考えているから、こういうものを出してと言ったときに、カロリー計算をする。皆さんは、そういった部分で小学校の給食を経験しているわけですから、このときはみんな食べたねとか、このときはこのカロリーと同じものでも違うものをとかで考えていかないと。そういうものをやらないと人は変わらない。それはそうでしょう？家でも得意な料理と、まずい料理って食べたことある？そうでしょう。うちもそうなもの。

はっきり食べるものは言ったほうがいいですよ。これはこういうふうにしてほしい、それを教育委員会として受けて、あるいは学校も受けて給食センターに言わないと変わらない。おいしいものは食べるよね。ある程度ね。いろいろな料理の献立を考えてくれるのが栄養士さんと教育委員会だから、残さないようなメニューを教育委員会は追求します。

なぜかという、私と教育長は意外と好き嫌が多いのです。我慢しろとか、そういう時

代ではないので、それはきちんと皆さんが生徒会でやることだと私は思います。

○生徒 ありがとうございます。

○伊藤教育長 好き嫌いはあってもいいのですが、好きなものでなかったら給食ではないということは、あり得ないのです。それはみんなも十分分かっていると思います。給食献立コンテストをしているので、その中の優秀作品、子どもたちが自分たちで考えたレシピを給食で来年度、出そうと思っています。それは、これからも何回も募集して、皆さんが提案してくれたものを給食の献立で出す。どんどんおいしい給食を皆さんに提供するためにも、我々の仕事なので、我々は頑張っ、もちろんみんなと一緒にそれを進めたいなと思っていますので、よろしくをお願いします。

○傍聴人②東柏ケ谷小学校長 中学生の皆さん、小学校の給食は、おいしいなと思っていましたか？（笑） 僕、言わせているわけじゃないですよ。私、給食大好きなので。それ以上に給食を食べている子どもたちの笑顔を見るのが好きなので。今、中学生の子ども、お弁当を前を向いて静かに食べるから。そうですね。だから、やはりおいしい給食を出して、子どもたちの笑顔を応援したいと思うのです。

そして、僕もそうなのですが、大人になっても給食の思い出って忘れないのです。だから、子どもたちが大人になって語ってもらえるような給食を、教育委員の先生方と一緒に出していきなと思っています。そのために知恵を貸してくださいね。お願いします。

○生徒 ありがとうございます。

○理事 ありがとうございます。

時間の関係もあって、質問はあと1つぐらいかなと思うのですが、1つか2つですね。では、少し相談してもらって。どうですか。

たくさん用意してくださったんですね。ごめんなさいね。お願いします。

○生徒 柏ケ谷中学校、校舎についてなんですけれども、老朽化していて、建て替えてほしいとは言わないのですが、幾つか雨漏りしている箇所があって、それが掃除するのがすごく大変なのです。それについてはどうですか。

○内野市長 トップレベルが答えればいいでしょうか。

今、設計に入っているのかな。外装と雨漏りについて。設計に入っていますから、できれば前倒しはして、来年から工事が始まると思います。

それより、私が今日思ったのは、迷路だよ。3年生は昇降口から、こっちの棟からこう上がって、2階に上がってこっちに来る。体育館に来るのも、また戻っていく。何か出入口を少し考えたほうがいいかもしれない。昇降口には靴があるけれども、体育館の体育の日が

あったときなどは、クラスに自分の靴を入れて、そのまま行くとか。そして体育館も校舎も皆さんがきちんときれいにする。一回、掃除の関係で、ルンバを入れようと思ったら猛反対を食らったの。私は廊下をルンバでやればいいじゃないかと思います。そうしたら学校の先生がだめだと、猛反対を食らって実現できていないのですが。

この校舎自体を部分的に今回直しますけれど、職員室と校長室が上に上がったじゃないですか。今後、不審者が入ってきて暴力行為をやったとき、誰が助けるか。これが問題なのです。これを先生は真剣に考えたほうがいい。設置者の責任になってくるから、最後はこちらに来るのですが。

だから、結局、昇降口を何時何分にもう閉めてしまう。それを自動的に開ける方法。こちらから開けるより、外から入らないようにしないと、誰か入ってきて、いわゆるナイフでも持たれてやられたらアウトです。これは現実にもうどこでもある話ですから。こういったことも考えた校舎づくりは必要なのですが、ここの校舎ともう1個の校舎がそうなのだよ。何か複雑に増改築をやっている、昇降口が、近くにないから。ぐるっとうやっ、毎日すごく歩くと思うよ。そうでしょう。だから、そういった部分でいくと、やはり校舎の位置って、ここの問題を一体どういうふうに考えていくかというのは今後の問題ですよ。ですが、雨漏りと外壁だけやるようなので、もう少し待ってください。

それから、それとともに、出入り口とか、そういうものを機能的に。体育館に行くのに、ぐるぐるっと向こうから回ってここに来るなら、直接来たほうが早いではないですか。そういったことも考える必要があるのではないかなと思いますので、それは教育委員会のほうで皆さんが問題提起して、そういったことを考える必要がある時代になったと思いますので、よろしくをお願いします。

ですが、予算がかかるので、すぐは、ぼんぼんといかないので、よろしくをお願いします。

○理事 今の件については何かありますか。大丈夫ですか。

それでは、そろそろお時間なのですが、皆さんのほうで、これは最後にぜひというものがあれば伺いますが、ありますか。

○生徒 先ほど部活の外部委託の話をしていたのですが、私も以前から、かなりそこには興味があって調べていて、外部コーチの人に顧問を任せるということを、よく聞いていて、それが進もうとしているのですが、私自身としては、調べた中で、外部コーチが強くなることだけを目的にしてしまって、部活をやっていたけれども辞めてしまった、不登校になってしまったという問題がかなり発生しているの、そこってかなり、もうすごく慎重に考えないと、本当に楽しい部活動が、あまり楽しくないという感じになってしまうから、そこをもう

ちょっとちゃんと考えてほしいなと思いました。お願いします。

○伊藤教育長 部活動の外部コーチや外部指導員、今でもそういう方に海老名市はお手伝いいただいているのですが、それについては、チャンピオンスポーツということで、要するに、優勝するとか何かということで、ただ、技術が、先生方は自分でずっと経験したものを、例えば野球を自分がやっていた人が野球をするのはできても、そうではない人たちにとっては、本当に難しいことなので、そういう意味で、専門的な知識を持っている人が入ってくるということは必要だと思います。

ただ、そのとき我々教育委員会は、その方と面接というか、しっかりと会ってお話しして、あと、こういう方々、それから、その人たちの研修ということで、そういうことにならないような勉強会のようなものを開いて、人を採用するようにしています。今後はそれが広がっていくと思いますが、何か困ったことがあったら、身の回りの先生に相談してほしいなと思います。

以上です。

○生徒 ありがとうございます。

○理事 それでは、ほかにもいろいろ質問を用意してくださっていたかもしれませんが、お時間の関係でここまでとなります。

最後に、内野市長、何か子どもたちにございますか。

○内野市長 本当にありがとうございます。いろいろ提案を受けましたし、最後の部活動、本当に楽しい部活動と、いわゆる上の質を目指す部活動、いろいろあろうと思います。ですが、受けるのは皆さんなので、そこをどうやって学校が考え、いわゆる皆さんが考えて、学校と教育委員会が考えて、それに対して予算をつけるのは私のほうなので、だから、その部分については教育長と一生懸命相談してやっていきたいというふうに思っています。

あるテレビで見たのですが、中学校では、今日は卓球をやろう、あしたは何をやろうというクラブもあるそうで、そういった面では楽しさも持っているのだと思います。

ですが、1つだけ。この間、白石と登別と海老名の教育長が3人で会話したら、白石は小学校では30人しかいない小学校が、いわゆる30人前後しかいないのが9校中5校あるそうです。そうすると、どうしているかという、クラスを2つ割って、こっちは1、2年生、こっちは3、4年生、黒板が2つあるそうです。先生が1、2年生を教えると、では自習をやると言っ、今度は3、4年生のところへ行って、こう教える。そういった状況で、同級生も誰もいない。ところが、問題が何かという、それだけ人数が少なくても、不登校がとても多い状況があります。

海老名は今、そういう状況ではないのですが、皆さんが楽しい中学生を送れるように、私どもも一生懸命頑張りますので、いろいろな意見をこれからも聞かせてください。よろしくをお願いします。

本日はありがとうございました。(拍手)

○**理事** 柏ケ谷中学校の皆さん、本当にありがとうございました。発表も含めてもう一度、会場の皆様も、柏ケ谷中学校の皆さんに盛大な拍手をよろしくお願いします。(拍手) ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして総合教育会議第二部及びユースミーティング、そして総合教育会議全体の閉会といたします。皆様方、本当にありがとうございました。柏ケ谷中学校の皆さん、ありがとうございました。(拍手)